

「絵画あるいは戦いの日々 関根勢之助 1929-2003」

展覧会名称	「絵画あるいは戦いの日々 関根勢之助 1929 - 2003」
会期	2013年6月1日(土)～7月15日(月)
開館時間	11:00～19:00(最終入場 18:45 まで)
休館日	月曜日(月曜祝日の場合は開館、翌火曜が休館)
企画	京都市立芸術大学構想設計研究室
主催	京都市立芸術大学
協力	京都市美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、京都文化博物館、京都市立芸術大学資料館、ギャラリー 16
会場	京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA1 / ギャラリー A
観覧料	無料
お問い合わせ	075-253-1509

展覧会概要

関根勢之助は京都市立美術専門学校(現京都市立芸術大学)を卒業し、独立展に入選、その後「ゼロの会」や「VOLの会」を設立し絵画を起点としながら先鋭的かつ実験的な制作を続けながら多くの美術家・文学者・研究者との公流を通して幅広い活動を行いました。

また京都市立芸術大学でも長く教鞭をとり、構想設計専攻の基盤を作り多くの優れたアーティストや様々な領域で人材を輩出しました。

本展覧会は関根勢之助の絵画と美術・教育などを束縛する制度的な思考と戦い続けながら同時に詩情にあふれた創作活動の軌跡をたどります。今回は原発の問題を先駆的に示唆した「炉と灰」や目を閉じて描かれた「ブラインドドローイング」などの実験的な作品と共に立体の小品や「VOL」などの資料も同時に展示し、その活動の全貌を展観します。

PRESS RELEASE

@KCUA

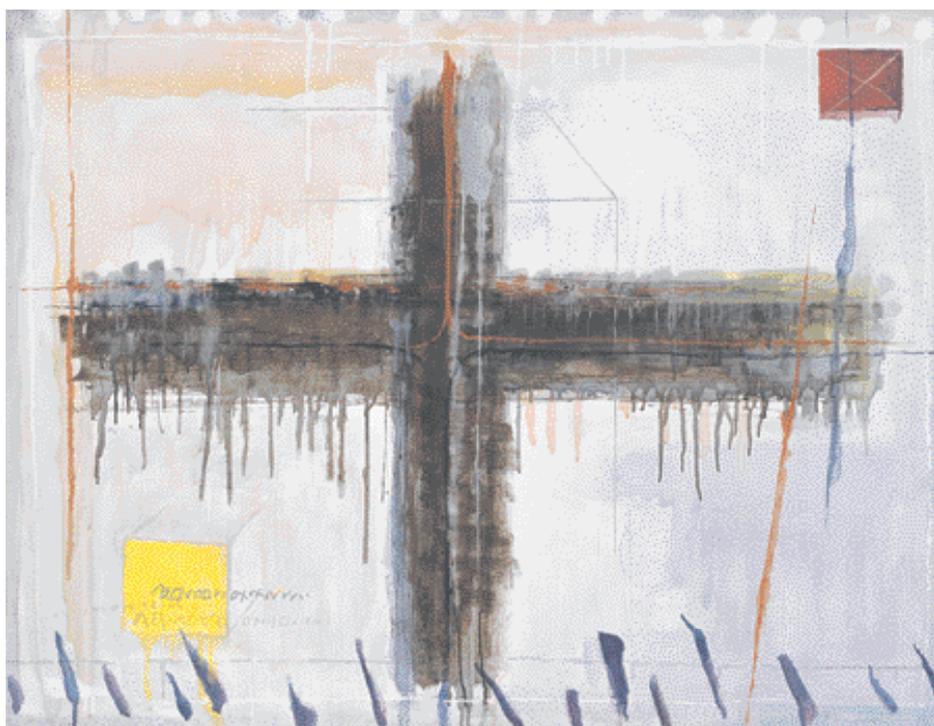
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS **ART GALLERY**
京都市立芸術大学 ギャラリー・アクア [堀川御池ギャラリー内]

お問い合わせ :075-253-1509 infokcua@gmail.com

<http://www.kcua.ac.jp/gallery/>



炉と灰／鉄、大理石／国立国際美術館所蔵／1993



03—絵画—或は戦いの日々／京都文化博物館所蔵／絵画／2003

「Sweet Revenge」

展覧会名称	「Sweet Revenge」
会期	2013年6月1日(土)～7月15日(月)
開館時間	11:00～19:00(最終入場 18:45 まで)
休館日	月曜日(月曜祝日の場合は開館、翌火曜が休館)
企画	砥綿正之
主催	京都市立芸術大学
会場	京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA2 / ギャラリー B, ギャラリー C
観覧料	無料
お問い合わせ	075-253-1509
関連イベント	アーティスト・トーク 6月1日(土) 14:00～ 出展作家：伊藤存、須藤絢乃、二瓶 晃、山本麻紀子、 アンドレアス・クレシグ 司会：岩城覚久

展覧会概要

本展覧会は現在さまざまな場で独自の活動を展開している、京都市立芸術大学構想設計専攻出身の作家5名による展覧会です。

芸術は芸術以外の目的に利用してはいけない—という命題を立ててみよう。しかし現実の私たちは歴史や国境や社会を与件として与えられている。また自然や科学はときに私たちの想像を超えてあらがえない現実をもたらす。

「好奇心の欠如という病に向き合うことはできる。好奇心を持つということは、他者の言葉を聞く耳をもつということ。」(ダニエル・バレンボイム)

私たちには目や耳がからだを与えられている。それによって他者の嘆きや叫びを見たり聞いたり感じることができ、またその能力によって描いたり、歌ったり、奏でたり、踊ったり、演じる事ができる。

それは芸術と呼ばれているけれど、そのちからは対立や差異を調停する働きがある。私たちは現在の現実に向き合いながら、希望や調停を芸術というささやかな、しかし普遍的なちからで行使する権利はある。それは様々な与件に対する私たちの「甘い復讐」だ。

そして私たちはまた平凡な一日に戻って行く。それはたわいもないけれどかけがえない一日だ。そのような平凡な日常を他者も過ごせるように想像するのも、私たちに与えられたちからだ。



伊藤 存 Zon Ito

1971年大阪生まれ。京都市立芸術大学構想設計専攻卒業。刺繍によるドローイング、しりとりによって増えていく小さな立体、どうつぶ図鑑、アニメーションの映像作品などさまざまに制作している。本展覧会で制作する「ブタの塗り絵」は構想設計の学生の頃に制作したものであるが、今回沢山の人に参加してもらい、2001～2013年にまたがる「ブタの塗り絵」として展示する。



山本 麻紀子 Makiko Yamamoto

1979年生まれ。京都市出身。2003年、京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻卒業、2005年、同大学院造形構想を修了。アートと生活、フィクションとリアリティ、プライベートとパブリックの境界を探求することをテーマにしている。ロンドン、タスマニア、パリ、水戸などで展覧会多数。



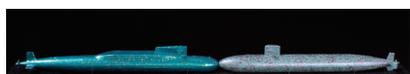
須藤 絢乃 Ayano Sudo

1986年生まれ。2009年パリ国立高等美術学校（エコール・デ・ボザール）へ交換留学。2011年京都市立芸術大学大学院造形構想修了。同年、ミオ写真奨励賞にて森村泰昌賞受賞。被写体の性別を超えた変身願望や理想像を写真に納め、少女マンガのカラー原稿と写真の狭間にあるような平面作品を発表している。



二瓶 晃 Nihei Akira

1972年千葉県生まれ。大阪芸術大学建築学科卒業、京都市立芸術大学大学院造形構想修了。大学在学中より舞台美術家として活動。作品はテキストを多用する形式や構成された空間からは舞台美術との類似性が見られ、鑑賞者は時として役者（または観客）としての振る舞いを要求される作品になっている。また、共同研究として脳神経科学と芸術の融合をテーマにした研究・発表も行っている。



アンドレアス・クレシグ Andreas Kressing

1971年パリ生まれ。京都市立芸術大学博士課程でメディアアートを学ぶ。現在ジュネーブ（スイス）在住。コンピュータグラフィックスの映像、電気製品、プラスチックモデルなど既製品を使用し、光を素材として場所や風景などに介入するインスタレーションを制作している。ジュネーブ、京都、神戸、カイロ、アルメニア、デュッセルドルフなど世界各地で個展、グループ展を行なっている。